

平成28年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ネクシーズグループ

コード番号 4346 URL <http://www.nexyzgroup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 近藤 太香巳

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長

(氏名) 松井 康弘

TEL 03-5459-7444

四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年9月期第3四半期の連結業績(平成27年10月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第3四半期	10,235	40.1	1,221	106.5	1,205	92.3	663	82.4
27年9月期第3四半期	7,304	33.3	591	—	627	—	363	—

(注)包括利益 28年9月期第3四半期 866百万円 (82.3%) 27年9月期第3四半期 475百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第3四半期	53.22	50.06
27年9月期第3四半期	28.56	27.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年9月期第3四半期	11,483	6,922	39.7
27年9月期	10,906	8,257	40.1

(参考)自己資本 28年9月期第3四半期 4,560百万円 27年9月期 4,375百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	5.00	—	5.00	10.00
28年9月期	—	5.00	—	—	—
28年9月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年9月期の連結業績予想(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	26.8	1,700	67.8	1,700	64.8	1,200	42.5	96.23

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年9月期3Q	13,413,640 株	27年9月期	13,413,640 株
28年9月期3Q	986,060 株	27年9月期	879,530 株
28年9月期3Q	12,470,464 株	27年9月期3Q	12,741,342 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、企業収益は改善に足踏みがみられる中、設備投資の持ち直しや、雇用情勢の改善等、緩やかな回復基調が続いております。一方で、イギリスのEU離脱に関する動向等、海外の政治・経済の状況は不安定さを増しております。GDP伸び率は、平成28年1月～3月に0.5%増となりました。消費者物価指数（生鮮食品除く）は、前年同月比△0.5%～0.1%の間で推移し、上昇傾向が鈍化してマイナス推移となりました。

このような状況の下、当社グループは新たな成長段階を迎えております。そのため、グループ経営体制を強化し、拡大事業及びその周辺領域へ重点的に投資することで、企業価値の最大化を図っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、引き続きLED照明レンタルサービスが連結業績を大きく牽引しております。4月より新入社員が入社したことで営業人員が増員しており、将来の更なる事業拡大に向けて教育体制の強化にも注力しております。その他の業務におきましても全体として好調に推移しております。

これらの結果、売上高10,235百万円（前年同四半期比40.1%増）、営業利益1,221百万円（前年同四半期比106.5%増）、経常利益1,205百万円（前年同四半期比92.3%増）、となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は663百万円（前年同四半期比82.4%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は次のとおりであります。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、主にLED照明レンタルサービスの利用者獲得業務及びLED照明の販売、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供等を行っております。

当第3四半期連結累計期間は、LED照明レンタルサービスにおいて、4月に新入社員が入社したことにより営業人員が増員しております。また、お客様からの紹介案件の増加や、試験的に1店舗導入頂いたお客様から追加で多店舗への導入依頼を受注するなど、サービスに対する信頼が営業効率の向上に繋がっております。加えて、節水装置、冷蔵庫、空調のレンタルサービス等を新たに開始しており、受注が増加傾向にあります。

また、インターネット接続サービス等のその他のサービスについても概ね堅調に推移いたしました。

これらの結果、ライフアメニティ事業は、売上高6,505百万円（前年同四半期比70.3%増）、セグメント利益1,430百万円（前年同四半期比102.4%増）となりました。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、企業や店舗等の個人事業者向けに様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、電子雑誌業務の制作受託及び広告掲載が好調に推移いたしました。また、新たに海外読者向けの訪日旅行電子雑誌「旅色」インバウンド版を創刊いたしました。

その他のインターネットを活用した企業の販売促進支援業務では、業務受託案件が好調に推移したほか、ECサイト運営会社等へ提供する物流支援も取扱高が増加傾向にありました。また、平成28年6月に連結子会社の株式会社ブランジスタゲームから、神体験スマホクレーンゲーム「神の手」をリリースしております。

これらの結果、ソリューションサービス事業は、売上高2,213百万円（前年同四半期比16.0%増）、セグメント利益391百万円（前年同四半期比11.9%増）となりました。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、着付け教室等の運営のほか、様々なイベントや式典の実施を行ってまいりました。特に平成28年6月に開催した様々な和文化を体感するイベント「和の祭典」では、生徒だけでなく友人や、一般の方にもご参加頂き、好評を得ることができました。そのほか、経営の効率化と費用の適性化にも引き続き努めております。

これらの結果、文化教育事業は売上高1,539百万円（前年同四半期比5.1%減）、セグメント利益72百万円（前年同四半期比4,695.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は11,483百万円となり、前連結会計年度末に比べて577百万円の増加となりました。

① 資産の状況

(流動資産)

流動資産は8,717百万円となり、前連結会計年度末に比べて726百万円の増加となりました。これは主に、LED照明レンタルサービスやLED照明の販売が好調に推移したことに伴う受取手形及び売掛金が1,100百万円増加した一方で、子会社株式取得に係る支出等により現金及び預金が232百万円、繰延税金資産が163百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は2,766百万円となり、前連結会計年度末に比べて148百万円の減少となりました。これは主に、出資している投資事業組合の清算及び分配金の受領により投資有価証券が144百万円、敷金及び保証金が3百万円それぞれ減少したことによるものであります。

② 負債の状況

(流動負債)

流動負債は3,163百万円となり、前連結会計年度末に比べて568百万円の増加となりました。これは主に、シンジケートローン契約の締結により1年内返済予定の長期借入金が242百万円、合わせて業容の拡大に伴い買掛金が168万円、解約調整引当金が146百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は1,397百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,344百万円の増加となりました。これは主に、シンジケートローン契約の締結により長期借入金(1年内返済予定を除く)が1,335百万円増加したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は6,922百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,334百万円の減少となりました。これは主に、子会社株式取得等に伴い非支配株主持分が1,527百万円減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により株主資本が172百万円増加したことによるものであります。

以上により流動比率は275.5%となり前連結会計年度末比32.4ポイント減少いたしました。株主資本比率は39.7%となり前連結会計年度末比0.4ポイント減少いたしました。一方で、時価ベースの株主資本比率は157.5%となり前連結会計年度末比56.7ポイント増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年7月11日公表の業績予想の上方修正に関するお知らせに記載のとおり連結業績予想の修正を行いました。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務、LED照明の販売及びインターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供等を行っております。

LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務及びLED照明の販売においては、営業人員の増員や紹介案件の増加により引き続き好調に推移する見込みであります。また、節水装置、冷蔵庫、空調のレンタルサービス等も増加に寄与してまいります。インターネット接続サービス「Nexyz.BB」については、新規会員獲得の営業を行わず、既存会員からの毎月の利用料収入で運営することで安定した収益が見込まれます。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、法人や個人事業主を対象に様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。企業から委託を受けて発行する電子雑誌制作業務並びに新規広告クライアントの獲得業務、その他のインターネットを活用した各種販売促進支援、金融商品仲介業務を行っております。

電子雑誌については、電子雑誌業務の制作受託及び広告掲載、その他のインターネットを活用した販売促進支援の案件継続や新規開拓が好調に推移する見込みであります。また、金融商品仲介業務では、収益基盤である証券売買手数料収入の強化を目的とした営業施策を展開していく予定であります。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。同事業では、きもの着付け教室等の日本の伝統文化に関する習い事への認知度や関心を高めるため、様々なイベントを企画しております。また、経営の効率化と費用の適性化に引き続き努めており、業績は概ね好調に推移するものと見込んでおります。

この結果、当社グループ全体の損益は、売上高13,500百万円、営業利益1,700百万円、経常利益1,700百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,200百万円と予想しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

企業結合に関する会計基準等の適用

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は31,082千円増加し、税金等調整前四半期純利益は70,637千円減少しております。また、当第3四半期連結会計期間末ののれんが279,743千円、資本剰余金が209,105千円減少しております。

平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第3四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,720,676	3,488,306
受取手形及び売掛金	3,327,654	4,428,506
商品	193,820	184,311
未収入金	368,099	326,277
繰延税金資産	282,624	119,391
その他	216,213	287,213
貸倒引当金	△117,867	△116,736
流動資産合計	7,991,222	8,717,269
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品（純額）	148,066	132,407
その他（純額）	126,770	152,555
有形固定資産合計	274,837	284,962
無形固定資産		
のれん	153,963	141,737
その他	111,091	110,545
無形固定資産合計	265,054	252,283
投資その他の資産		
投資有価証券	1,415,852	1,271,255
敷金及び保証金	453,132	449,342
その他	593,888	595,221
貸倒引当金	△87,757	△86,471
投資その他の資産合計	2,375,115	2,229,348
固定資産合計	2,915,007	2,766,594
資産合計	10,906,230	11,483,863

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	707,297	876,287
短期借入金	600,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	-	242,760
未払金	517,457	502,362
未払法人税等	205,905	118,620
解約調整引当金	226,294	372,760
業績連動賞与引当金	-	102,417
その他	338,617	348,526
流動負債合計	2,595,572	3,163,734
固定負債		
長期借入金	-	1,335,860
その他	53,500	61,762
固定負債合計	53,500	1,397,622
負債合計	2,649,072	4,561,356
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,189,156	1,189,156
資本剰余金	1,134,423	925,318
利益剰余金	2,547,385	3,038,789
自己株式	△481,137	△591,358
株主資本合計	4,389,828	4,561,905
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14,234	△1,833
その他の包括利益累計額合計	△14,234	△1,833
新株予約権	2,162	10,401
非支配株主持分	3,879,399	2,352,034
純資産合計	8,257,157	6,922,507
負債純資産合計	10,906,230	11,483,863

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
売上高	7,304,930	10,235,480
売上原価	4,224,987	6,174,098
売上総利益	3,079,943	4,061,381
販売費及び一般管理費	2,488,433	2,839,641
営業利益	591,509	1,221,739
営業外収益		
投資事業組合運用益	18,986	—
持分法による投資利益	11,428	15,050
その他	7,119	3,740
営業外収益合計	37,534	18,790
営業外費用		
支払利息	1,259	3,917
投資事業組合運用損	—	16,814
融資手数料	—	10,500
その他	646	3,337
営業外費用合計	1,905	34,569
経常利益	627,137	1,205,960
特別利益		
固定資産売却益	—	1,666
特別利益合計	—	1,666
特別損失		
固定資産除却損	8,383	—
減損損失	8,976	—
特別損失合計	17,359	—
税金等調整前四半期純利益	609,777	1,207,626
法人税、住民税及び事業税	115,423	190,240
法人税等調整額	402	163,203
法人税等合計	115,826	353,444
四半期純利益	493,951	854,182
非支配株主に帰属する四半期純利益	130,077	190,475
親会社株主に帰属する四半期純利益	363,874	663,707

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	493,951	854,182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△18,525	12,400
その他の包括利益合計	△18,525	12,400
四半期包括利益	475,426	866,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	345,349	676,107
非支配株主に係る四半期包括利益	130,077	190,475

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ライフアメリ ティ事業	ソリューショ ンサービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,819,237	1,863,714	1,621,978	7,304,930	—	7,304,930
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,967	43,385	173	45,525	△45,525	—
計	3,821,204	1,907,099	1,622,152	7,350,455	△45,525	7,304,930
セグメント利益	706,626	349,842	1,520	1,057,989	△466,480	591,509

(注) 1. セグメント利益の調整額△466,480千円には、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ライフアメリティ事業」において、廃棄処分の方決定した事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減損いたしました。当該減損損失の計上額は8,976千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ライフアメリ ティ事業	ソリューショ ンサービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,505,122	2,190,379	1,539,978	10,235,480	—	10,235,480
セグメント間の 内部売上高又は振替高	524	22,721	—	23,245	△23,245	—
計	6,505,647	2,213,100	1,539,978	10,258,726	△23,245	10,235,480
セグメント利益	1,430,479	391,605	72,929	1,895,014	△673,274	1,221,739

(注) 1. セグメント利益の調整額△673,274千円には、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。